英国大使館別荘記念公園の利活用について

Utilization of British Embassy Villa Memorial Park

栃木県環境森林部自然環境課　*Tochigi Prefecture*

栃木県のキャラクター
「とちまるくん」

日光行ったことある人，手挙げて！

日光といえば，関東圏の修学旅行のメッカ。日光行ったことある人！と聞けば，多くの人が手を挙げ，どこに行った？と聞けば，東照宮などの観光地の名が出るだろう。しかし，旧大使館別荘行ったことある人！となると，どうだろう。

「国際避暑地」奥日光

中禅寺湖の標高は 1,269m。人造湖でなく，4k㎡以上の湖としては，日本一標高が高い。８月の平均気温は 18.7℃（1981-2010 年気象庁統計）と涼しく，避暑には最適の気候である。このため，明治中期～昭和初期，中禅寺湖畔には，各国の外交官などの別荘が建ち並び，外国人たちが夏を過ごす「国際避暑地」として栄えた歴史がある。そのきっかけを作ったのが，明治維新に貢献した英国外交官アーネスト・サトウ。サトウは，英語で日光のガイドブックを出版し，広く日本居留の外国人に紹介したほか，自身も，中禅寺湖畔に山荘を建て，避暑や登山を楽しんでいた。この山荘は，後に続く多くの外国人別荘の草分け的存在となった。

サトウの山荘から英国大使館別荘へ

サトウの山荘は，明治 29（1896）年，鹿鳴館を設計した建築家ジョサイア・コンドルの助言を受けて建てられた（設計者は記録が無く不明）。湖側には，石積みの三段テラスが設置され，湖面から約 10m の高さがある。建物は，木造２階建ての和洋折衷建築で，長崎グラバー邸と同様のベランダ・コロニアル様式を取り入れ，湖側に，大きく窓が開く広縁がある。サトウは，中禅寺湖を「絵のような湖である」と称しており，美しい風景を楽しむため，建築場所や様式にこだわったと考えられている。サトウの離日後，山荘は後任の公使に譲渡され，後に大使館別荘となり，平成 20（2008）年まで歴代の外交官たちに使用された。

写真－１　英国大使館別荘記念公園

旧英国大使館別荘の整備

旧英国大使館別荘は，平成 22（2010）年に栃木県に寄贈された。栃木県では，平成９（1997）～12（2000）年に，同じ中禅寺湖畔にある旧イタリア大使館別荘を記念公園として整備し，一般公開した実績があり，旧英国大使館別荘についても同様に整備・公開することとした。その後，地元関係者や有識者からなる「旧英国大使館別荘整備検討委員会」を組織し，整備の基本計画を策定。国際避暑地の歴史やサトウについて解説するとともに，サトウの愛した明治の奥日光をテーマに，豊かな自然や風景をゆっくり楽しめる空間づくりをコンセプトとして，建物や三段テラスの調査及び復元工事を行い，平成 28（2016）年７月１日から一般公開した。

写真－２　英国大使館別荘記念公園２階からの眺望

英国大使館別荘記念公園の特徴

先に整備・公開されていたイタリア大使館別荘記念公園では，大使館別荘として使用されていた当時を再現するように家具や備品等が展示されており，建物自体も国の登録有形文化財となっていることから，館内での火気を使用した調理やイベント等の開催が難しい。対して，英国大使館別荘記念公園は，当初から展示・体験等で活用する建物として，イタリア大使館別荘記念公園と差別化し，整備が進められた。現在，館内では，１階でサトウや旧別荘，国際避暑地としての中禅寺湖

写真－３　Tea room 南四番 Classic の紅茶とスコーン

畔等に関する展示を行っており，２階には，展覧会等で使用可能なギャラリースペースがあるほか，「Tea room 南四番 Classic」という喫茶店が営業し，現在の英国大使館専属シェフ直伝レシピの紅茶やスコーン等を現地で調理・提供しており，文字どおり，国際避暑地の歴史と英国文化を味わえる施設となっている。

中禅寺湖畔国際避暑地記念施設の活用

中禅寺湖畔には，２つの旧大使館別荘のほか，GHQ アメリカ人スタッフの保養所として使われ，のちにアメリカ合衆国大統領となるアイゼンハワー等も訪れた「中禅寺湖畔ボートハウス」など，かつての姿を今に伝える「国際避暑地記念施設」が残されている。現在は，こうした施設を活用し，施設でのミニコンサートや，湖に沈む夕日を楽しむ夕景鑑賞会，地元高校生による茶道部の野点や調理科作成の焼菓子の販売等，日頃の学習成果の発表を兼ねたイベント，地元大学で建築を学ぶ学生による，別荘模型の展示や記念公園の建物解説，明治 150 年を記念した，喫茶での明治期の再現メニューの提供，地元ホテルで披露宴を行う新郎新婦の前撮りや人前挙式など，英国大使館別荘記念公園を中心に，地域の協力の元，様々なイベント等が行われている。

栃木 DC と日光国立公園満喫プロジェクト

DC とは，デスティネーションキャンペーンの略称で，JR６社と地元が協力し，全国から観光客を誘致する，国内最大級の観光キャンペーンのこと。栃木県では，平成 29（2017）年～31（2019）年の４～６月に，プレ DC・DC・アフター DC と，３カ年の春の大型キャンペーンを実施している。平成 30（2018）年の DC では，英国・イタリア大使館別荘記念公園で，女優の吉永小百合さんが出演する CM の撮影が行われ，その効果もあり，多くの観光客が訪れた。また，期間中には，中禅寺湖畔で現在も現役で利用されているベルギー王国大使館別荘の特別公開があり，これに関連し，国際避暑地をめぐるスタンプラリーやハイキングイベント等を実施した。DC 関連施策によって，今まで他の観光地の影に隠れていた国際避暑地記念施設にスポットが当たり，奥日光地域全体の活性化につなげることができた。今後は，キャンペーンや特別公開などに頼った一過性の誘客ではなく，それを土台として，持続的に誘客を進めていくことが重要となる。また，同様の観光誘客施策として，環境省と連携し，「日光国立公園満喫プロジェクト」を推進している。国立公園満喫プロジェクトは，日本の国立公園を「世界水準のナショナルパーク」として整備し，その魅力を世界に発信し，外国人観光客を呼び込もうというもの。日光国立公園は，国内 34 の国立公園の中から，先導モデル８公園の一つに選ばれており，「NIKKO is NIPPON　自然・歴史・文化　美しい『日本』を感じられる東京圏のプレミアムリゾート」というコンセプトを掲げ，外国人の受入態勢整備や，観光資源の磨き上げ，海外に向けたプロモーション等を実施している。中禅寺湖畔の国際避暑地記念施設は，各国大使に愛された「プレミアムリゾート」の中心となる施設として，今後の誘客の核となることが期待されており，各種イベントや，館内解説ガイドの実施等，外国人を中心とする観光客にとって魅力的で，何度も訪れたくなる施設として磨き上げていくことが課題となっている。

写真－４　地元高校生によるイベント（茶道部野点）

おわりに

こういった施設は，建物が完成したところがゴールではなく，その後，どのように活用していくか，持続的に使うにはどうしたらよいか，ということが重要で，そういった意味では，施設は永遠に未完成のまま，使われながら改良されていくものと考えている。ハード・ソフトを両輪としてより良いものにしていき，訪れた方に，「こんなにいいところがあったのか。こんなイベントもあるのか。それなら，また来たいね」と思っていただけるような施設づくりに，今後も取り組んでいき，日光行ったことある人！どこに行った？と聞くと，「湖畔の大使館別荘に行った」と答えが返ってくるようになることを期待している。

（栃木県環境森林部自然環境課の紹介）
栃木県の豊かで優れた自然環境を守り育て，その恵みを活かすとともに，次世代に引き継いでいくため，自然公園等の自然環境の保全と利活用，生物多様性の保全と持続可能な利用，野生鳥獣の適正な管理の推進等に取り組んでいる。